

て朝昼晩通って勉強しましたよ。勉強の甲斐なく今でもヘタですけどね。ハハハ

事業を始める

いつまでも遊んではいられないもんで、すから事業を始めました。日露戦争のとき、綿火薬を使用しましたが、その綿薬に使う綿はインド、支那からの輸入に頼っていたわけですが、当時非常に苦勞しましたね。そこで私は非常時に困らないように農家の人達に綿を作ることを薦め、日本棉花栽培奨励会というのを作り、本部を千葉県の佐原に置きました。

それから、良質の種が必要だということでアメリカから取り寄せる一方では種ヶ島、鹿児島、土佐など日本の棉花の産地に足を運び種を買付け、また無料で栽培方法なども指導しました。

押しつけられた訓盲学院

そんな時のある日曜日、大正の末期ですが、千葉県に江戸時代日本地図を最初に作った井能忠敬という人がいましたね。私は当時その井能忠敬の銅像の近くの長屋に住んでいたんですが、その銅像の前で知り合いの牧師にばったり出会ったんです。彼は落花生売買を業として、そこらあがる収益で教会を運営していた人なんですが、一度一緒にビフテキを食いに行こうという話になったんです。でも当時ビフテキは千葉にはもちろん、

今後の盲児教育

教育のモットーはキリスト教によっています。奉仕する人間を作り出し世に送るといふことです。既に八百人程度の同窓生がおりますが、それぞれの社会の場で活躍していますよ。

現在、一番力を入れたいと考えているのは知能障害のある盲児の教育です。ご承知だと思いますが、最近普通の知能を備えた盲児というのは生れません。未熟児が失明して脳をおかされるというのが多いんですよ。

従来の失明原因はトラホーム、はしか、栄養不良、ジフテリア等によるものが多かったわけですが、生活の向上と医学の進歩で原因となるものがなくなってきたために、盲児の絶対数も減ってきているということですね。

最近多いのは、未熟児と遺伝性のもので、私は予言しますが、現在七十四の盲学校は十五年経ちますと半数になり、三十年経つとさらにその半分の十五校程度になると思いますよ。五十年後は全国に三校もあれば良いように思います。

現在施設の職員は充分に足りていません。私の所は盲児一人に対し保母一人といた割合です。施設によっては盲児一人に対して職員三人という所もある程度です。

計画がひとつ挫折

五、六年前の将来の計画として、東南アジアの盲児童を施設に入所させること

東京にもありませんね、三日後横浜まで出かけることになったんです。念願のワラジみたいな大きなビフテキを食べ、それで帰るのかと思ったら、そうではなくて、彼がつれていったところが、現在の訓盲院なんです。

当時は、生徒十三人、先生が二人、炊事婦のおばあさんが一人、建物面積二百三十坪の実に小規模な訓盲院だったわけなんです。

実はそれ以前の話があるんです。訓盲院は経営困難から廃校の予定になっていました。院長のミス・スレートは廃校は忍びない、誰れか経営を引受けてくれるものはないかということで各地を伝導旅行しながら適任者を探していたらしいですね。そして伝導旅行中の千葉で、くだんの牧師から変わった奴がいるということで私のことを聞いて会いたいということになったんです。

その日は院長の説教を聞いただけで何事もなかったわけですが、その晩、旅館に呼び出しを受け訓盲院の引受けを懇願されたわけですね。

私はその時、経営を引受ける気持ちには毛頭なく適当に返事をして、考えておきましょうということ帰って帰って帰ったんです。

話は前後しますがね、実はその後のビフテキの話なんです。なんのことはない、計画的なんですね。私を誘い出すためのエサだったんですよ、アツハツハハ

を考えていました。

訓盲院の隣りに進駐軍が接収した市の所有地があったものだから、その土地が返還される時これを借地し、また残っている建造物もこれを利用して、現実を期待し、外務省などにも働きかけ賛同を得たわけですが、結局、跡地を児童公園にするという市の意向で計画は挫折しました。保母も現地からつれてくることを考えていたんですが……でもね、児童公園になるといふことであれば私も反対はできませんよ。訓盲院と隣接してはまず利用もできるわけですからね。

連続二百回勝利投手となる

私は野球が本職で、訓盲学院経営が副職ですよ、アツハツハツハハ。世間の人が言いますよ、今村の訓盲院運営哲学と、野球哲学は一緒になって分らないと、でも原理は同じですね。

私は連続二百回勝利投手になっていきますよ。二百回目は四十九年五月神奈川県広報課との試合です。実に十七年かかっていきますよ。昭和三十三年五月十日に東京の日赤本社とやっつて勝ったのが第一回です。

野球は佐敷にいた時からやっています。尋常小四年頃からです。慶応義塾の学生がいましたね。夏休みにその学生に習っていたわけですよ。もちろんグローブはありませんで硬球を素手で扱っていましたよ。バットは樫の木を削ったものですよ。野球を始めたのが十一歳ですから私の球歴は七十五年になります。

私達二人が訪れたその日は、既に夕食の仕度がしてあり、隣の女子神学校では私達の歓迎会まで計画されていたんです。それは盛會なものでした。それでも私はまだまだ引受けるとは言いませんでしたよ。その日は学院の創立者の家に宿をとったわけですが、翌日は学院の理事会にいやおうなしに引っぱりだされましてね。口説かれるのは、口説かれるは閉口しました。その理事会で驚いたのは、日本でも有名な牧師さんが十人程もいたんです。平田平三、山鹿旗之進、創立者のドレーパー博士の皆さん方です。

私は、ものを言ったら負けると思いうから一時間半ばかり黙っていました。ついに経営に教育方針に一切干渉しないという条件をつけた上で訓盲院の経営を引受けたわけですよ。理事会の方々も偉かったですね。その後三十五年程一緒に仕事をしましたが、一口の干渉もありませんでした。

大正九年、三十歳でこの仕事を引受けた時の資産評価額は約六千三百円、現在十五億にふくれあがっています。これは私の功績というよりも、三十歳の青年を信じて経営を任せられた人達の功績だと思います。偉いと思います。

自立主義を貫く

話は変わりますが、私が訓盲学院の経営を引受けた時十三人だった盲児は、十年程前九十七人を数えました。その後、医学の進歩等もあって盲児が少なくなってきました。今、全国に盲学校がこま

今でも五十球ぐらいの投球練習は毎日欠かさずやっています。毎日やりませんとね、連続記録は達成できません。

二百勝と一口に言いますが、私から言うのもおかしい話かも知れませんが、これは大変なことですよ。かりに二百勝達成できる人がいたとしても八十五歳まで続けたらどうでしょう。年齢の記録があります。この壁はちょっと破れないと思いますよ。

この間の二百勝目の時も七回完投してまだもう一試合消化できるぐらいの余力はありましたよ。

故郷（佐敷）の思い出

佐敷を出て、熊本には余り帰っておりません。思い出というか、楽しみといえ、小学校当時の同級生に会うのが一番楽しいですね。それでも、この年になると一人も残っていませんね……。水俣も変わってきましたし、その他の所も変わってきていますが、比較的変わっていないのが生れた佐敷ですね。なつかしいですよ。

私が小学生の頃、汽車はありませんでした。佐敷小での体育の時間、国道を走る自転車を皆んなで走って見に行つたことくらいです。樫業が終り学校帰りにその自転車が大きな商店の前に置いてあるのを憶えています。初めて自転車を見た時のことですよ。

自然は熊本の財産

熊本県の観光について思うのは、阿蘇、天草、球磨地区の自然を大事にして欲しいと言ふことですね。

で入れて七十四校ありますが、私立としては小・中・高等学校教育までやっているのは訓盲学院一校です。

当学院は明治二十二年創立され、大正九年私が着任したわけですが、経営は当初、実に苦しかったですよ。円タタまでやりました。もちろん車をかう金は無いわけですから一日三円五十銭で借りてね、一日六〜七円の収入があったように思います。婦りに米二斗袋、ひとつとか子供のおやつ駄菓子石油缶二缶ぐらいい買ってきていました。昭和十年頃のことです。

私は寄付は当でしていませんでした。寄付に頼っていたのでは、それによって教育される子供が駄目になってしまうというのが私の考えだったので。自ら働き、自ら立ててゆくという自立主義の考え方ですね。

訓盲学院を引受けた当時、年間経費が三百円位だったんですよ。

その頃、市の方から百二十円の寄付の話がありましたけど、もったがための煩雑さを考えるといやになりました。断わったことがあります。辞退するほどに、自由で独立の経営をしたいという考えでした。

その方針は、今も一貫しています。現在、年間経費が七千万円位になりまして、国県の関係機関も、今では充分に援助してくれましてね。自己負担分一千万で何とかやっています。年々負担分は縮小してはいますが、福祉重視の政策で見通しは明るいんですよ。

戦後、しばらく航空会社を経営していましたが、その当時よく自分の飛行機であちこち飛びましたが、自然という面においては熊本はまだ恵まれています。これは熊本の財産ですよ。自然を守るだけではなしに、積極的に自然化も図ってもらいたいと思います。自然との調和が大切だということですね。ホテルばかり建てては駄目ですよ、熊本は人情がいいですよ。特に女性はいいですね、優しく、情味があって、北海道の女性と良く似ていますよ。

私の生活記

あなたは、五目寿司が好きですか、私は大好きです。私は他に毎日十八日の生活を食べていますよ。自律心の生活九項目、自律体力の生活九項目です。毎日一つも欠かしません。たとえ毎日定時スポーツ練習の動行にしても雨が降れば室内で投球練習をやるといったこととか、自然にして質素な生活、事ごとに祈りごと感謝する生活、酒、煙草等心身に有害物をとらないこと、動物物を人格的に愛護すること、あるいは自炊生活励行といった十八項目を自分に課してあります。

また、その中のひとつですが生活記録の写真撮影、現像、焼付けまでですが、原稿を十七万ぐらい持っています。約五十年間の記録というわけですよ。

毎日習字、毛筆手紙がぎを行なっています。色紙も五、六百枚書いて持っています。私が死んだ時に葬式で皆さんにお配りしようと考えているんですよ。自動車の運転も毎日励行しています。

四十何年になりますが、後二回位の免許更新は可能だと思いますよアツハハ。